

I ま え が き

令和5年度の一般会計の決算額は、歳入総額が8,632億6,800万円、歳出総額が8,526億5,800万円となり、歳入・歳出とも増となりました。

歳入総額については、前年度決算額と比較すると0.6%の増となっています。

これは、令和5年5月に新型コロナウイルス感染症が「5類感染症」へ移行したことに伴う、感染症対策経費の減による国庫支出金の減などの一方で、市民税や固定資産税などの市税の増、本庁舎等建替事業の進捗による市債の増などによるものです。

歳出総額については、前年度決算額と比較すると0.2%の増となりました。

これは、新型コロナウイルス感染症対策に係る経費の減による健康福祉費の減などの一方で、本庁舎等建替事業の進捗による総務費の増、富士見公園整備事業の進捗による建設緑政費の増などによるものです。

また、歳入歳出差引額から、令和6年度への繰越事業に充当する繰越財源を差し引いた実質収支額、いわゆる剰余金は43億6,900万円となりました。

市税収入については、個人市民税が所得の増加などにより増、固定資産税が土地の負担調整措置などにより増となったことなどにより、2年連続の増で過去最高となりました。また、予算では減債基金から120億円の新規借入れを予定していましたが、決算では、予算に対して市税が増収となったほか、庁舎・学校等の光熱費や、保育所の利用児童数の増加が見込みを下回ったことに伴う歳出の減などにより、最終的には新規の借入れを行わず、過去の借入金を10億円返済しています。なお、これまでの借入額の累計は517億円となっており、引き続き厳しい財政状況となっています。

このような状況においても、多様化する課題への的確な対応など、必要な施策・事業の着実な推進と、財政の健全化による持続可能な行財政基盤の構築の両立に向けた財政運営を進めてまいります。

以下、令和5年度決算のあらまし及び令和6年度上半期予算執行のあらましについてご説明いたします。